

第3章 展開方策（アクションプログラム）

奄美ミュージアムの目的を具現化するために、「人材の育成・活用」、「産業の振興」、「体験・滞在型観光の推進」、「情報の発信」、「群島内外との交流・連携の促進」という5つの取組の方向性に基づき、個々の展開方策(アクションプログラム)を設定します。

3. 1 人材の育成・活用

奄美ミュージアムでは、地域住民も「宝」であり、また、「宝」を調査・研究し、その魅力を伝える学芸員の役割を担っています。奄美ミュージアム構想を推進するにあたっては、地域住民の主体的な参画を促進します。

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
			奄美自然・文化インストラクターの育成・登録	<p>奄美群島の観光関連産業従事者(タクシーやバスの運転手、ガイド、宿泊施設のフロント係など)を中心に一般の群島住民も対象として、奄美の自然・歴史・文化に関する講座を開き、「奄美自然・文化インストラクター」を育成する。育成されたインストラクターにより、観光客などに対して奄美の良さ、自然・歴史・文化の特徴などを正しく伝えてもらう。また、次代を担う子どもにも正しく伝えてもらうことも期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数回からなる実習や講義により学んでもらい、講座修了者を「奄美自然・文化インストラクター」として認定する。 ・受講者本人の希望や適性を勘案しながら、登録制度を設け、観光客や各種の地域団体からインストラクター派遣の要望などがあった場合に対応してもらう。 ・インストラクター用のテキストとして活用できる「奄美まるごとハンドブック」を製作する。 ・地域住民グループや学校などからの要望により、奄美群島各地に講師を派遣する「出前講座」を実施する。 ・将来的に、観光客等に対し奄美の宝を案内し解説する観光ボランティアガイドの自主的な組織や新しい観光スタイル＝奄美癒しツーリズムを促進する人材を育成する。 	奄美群島広域事務組合など
			奄美型もてなしサービス研修の実施	<p>観光客や来訪者に「奄美の人の良さ」を味わってもらえる、もてなしの心・真心あふれる交流を促進するため、研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光関連産業従事者をはじめ、民泊受け入れ家庭、観光連盟等関係者、行政関係者などを対象とする。 ・今日の観光動向全般から奄美の特質まで幅広く研修する。 ・観光客の視点に立ったもてなしやサービスが提供できるようにカリキュラムを検討する。 	奄美群島観光連盟、各島観光協会、奄美観光受入連絡協議会など

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
			「奄美の達人養成塾」の開講	世代間交流を促進しながら、地域の若者・子どもたちに、その地域に伝統的に伝わる技などをはじめ自然・歴史・文化を学んでもらい次代に継承する。また、奄美を誇りに思う気持ちを育みながら、島外の人に奄美の自然・歴史・文化を語れるようにする。 「奄美自然・文化インストラクター」の子ども版として機能させつつ、総合学習などをはじめ学校教育との連携を考える。 ・地域の高齢者等に講師となってもらい、各地域に伝統的に伝わる技・暮らしの知恵・遊び・言い伝え・昔話などを若者や子どもたちに伝えてもらう。 ・学校や NPO との連携を考える。	手熟師会、奄美自然学校、各教育機関など
			エコガイドの資質向上	自然との共生を推進するため、環境省等とも連携しながら、自然への負荷をかけないでガイドできる人材を育成するなど、エコガイドの資質向上を図る。	奄美群島広域事務組合、市町村、奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)など
			伝統文化後継者育成の推進	学校教育や生涯学習の場で島唄や八月踊り等の伝統文化の保存・伝承の推進につとめる。 ・伝統文化に関する情報の提供、指導者の斡旋 ・学校や教育委員会・市町村の生涯学習担当者との協働 など	住民、市町村、文化協会、青年団等の各団体 など

3. 2 産業の振興

奄美の「宝」を守り、育て、有機的につなぐことで、産業振興など地域振興につなげていきます。

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
			新たな産業の創出	観光業と他産業の連携など異業種間の連携を通じて、奄美の素材・特性・シーズン性を生かした新たな産業を創出する。 (例) ・大島紬や黒糖焼酎等の地場産業と観光、浜遊びなど地域の風習と観光の連携などによる新たな体験型観光の開発 ・農林水産業と観光の連携による新たな加工品の開発、観光農園の開発 ・黒糖焼酎の焼酎粕を有効活用した新たな健康飲料・食品の開発、ウコンなど地域の特産を生かした健康食品や健康メニューの開発など「健康」をテーマとした産業の創出 ・「観光健康産業」の創出 = 奄美の健康・長寿・癒しに関する資源などを生かしながら、心と体の健康を目指した健康産業と観光産業とが融合した新たな産業の創出(タラソテラピー、長寿食材の活用や島唄・八月踊りの活用など)	奄美ミュージアム推進会議(奄美ブランド部会)、沖縄・奄美スローフード協会、奄美長寿食文化研究会、奄美大島観光物産協会、商工会議所、商工会等の各団体 など

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
				・伝統的な食の見直しによる新たな産業の創出(専門レストランの開店、インターネットによる販売等) ・地産地消の一環として農業・水産業と販売業・飲食業の連携 など	
			販売体制の整備	農林水産物や加工品をはじめ奄美の特産品などを販売する施設の設置・充実や新たな販路を開拓し、地域経済を振興する。 ・農林水産物・加工品販売施設(物産館・直売所・道の駅など)による地産地消の促進 ・都市部などのアンテナショップでの販売実施 ・カタログやインターネットによる通信販売 など	各団体 奄美ミュージアム推進会議(奄美ブランド部会)など
			「奄美のブランド」の確立	奄美の地域イメージ(自然・歴史・文化・気候・風土など)と関連させながら、商品・製品・サービスの開発や高付加価値化に取り組むことにより、他地域産との差別化を図るとともに、知名度向上を図りながら、市場における優位性を確保することを目指す。 ・トレーサビリティなどにも適切に対応し、食の安心・安全をアピール ・パンフレット等の作成 ・アンテナショップ等での販売 ・ホームページによる情報発信 など	奄美大島観光物産協会、奄美ミュージアム推進会議(奄美ブランド部会)など
			スローフードの推進	奄美ならではのスローフードを推進し、地産地消の促進を図る。 ・在来種野菜や薬草の活用など、奄美の伝統的な食の見直しと観光業などへの普及を行うとともに、地産地消の促進を図る。 ・奄美の素材・特性・シーズン性を生かしながら消費者需要とマッチした創作郷土料理の開発と観光業などへの普及を行うとともに、地産地消の促進を図る。	奄美長寿食文化研究会、生活改善グループ、奄美ミュージアム推進会議(奄美ブランド部会)、奄美大島観光物産協会など
			コミュニティビジネスなどの創出	豊かな地域社会の実現と地域経済の活性化を目指して、コミュニティビジネスを創出する。地域通貨についても検討する。 (例)・コミュニティFM ・牛車観光 ・子育てや高齢者等の支援 (観光客も利用可能なNPO等による子供の一時預かりやガイドヘルパー、島外居住高齢者のための墓守サービス) など	住民、NPO等の団体など

3.3 体験・滞在型観光の推進

奄美の「宝」を守り、育て、有機的につなぐことで、個性的で魅力的なストーリー性のある観光ルートづくりを行い、体験・滞在型の観光を推進します。

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
(1) 奄美癒しツーリズムの推進					

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
			奄美癒しツーリズムの推進	<p>奄美自然・文化インストラクターの活用を図りながら、奄美の宝を活用した体験・滞在型観光＝農林水産業体験や新しい価値観であるスローライフ・スローフードなどをテーマとした観光を推進する。航空会社・船会社・バス会社・旅行会社・ホテル等との連携による新たな群島内周遊商品やツアー商品の開発・チャーターなども行う。あわせて、奄美癒しツーリズムが円滑に推進されるよう、交通体系の充実に向けての検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業の成果を反映したツアーの企画 ・観光客の目的・ニーズに合った奄美の宝を生かしたきめ細やかなモデルルートや体験プログラムの構築 ・奄美型民泊の推進 ・地域住民を対象としたガイドツアーや現地説明会の実施(地域の宝を巡ってその良さを再認識するためのミニツアー) ・台風時等における観光客等に対する情報提供や各種手配の実施 など 	住民、NPO(当面は各島観光協会)、奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会、各島分科会)、市町村、奄美観光受入連絡協議会など
			受入体制の整備	<p>奄美癒しツーリズムを推進するため、地域の人材の活用やコーディネート団体の整備など、受入体制の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を観光ボランティアとして活用 ・コーディネート団体による民泊や体験プログラムの紹介・斡旋 ・コーディネート団体による民泊利用料金等の収受や質の維持のために必要な指導・助言 ・高齢者や障害者等の来島を促進するため、宿泊施設や歩道などのバリアフリー化 など 	住民、NPO(当面は各島観光協会)、奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会、各島分科会)、市町村など
			エコツアーの質的向上	<p>自然への負荷を軽減するとともに、奄美の宝への理解を促進しながら利用者の満足度の高いエコツアーを普及する。</p> <p>【普及のための必要事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業者間の自主的ルールづくり ・エコガイドの質的向上 ・接遇マナー向上 など 	エコツアー事業者、奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)、市町村など
			ロケーション撮影の誘致等によるフィルムツーリズムの推進	<p>フィルムコミッションを設立し、映画やテレビなどの撮影を誘致。奄美の魅力を広く内外にアピールし、観光促進を図る。</p> <p>*フィルムコミッションとは、映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケを円滑に進めるため様々な協力・手配を行う非営利公的機関のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロケ候補地のガイドブックやホームページの制作 ・撮影協力者・ボランティア(エキストラなど)などのネットワークづくり ・既存施設を有効活用した撮影環境の整備 など 	奄美群島観光連盟、各島の観光協会、市町村など
			癒し景観の保全・整備	<p>奄美の伝統的な景観や自然景観を保全し、次代に継承するとともに観光を促進する。また、奄美の気候・風土を生かした街並みづくり・景観づくりを推進し地域住民・観光客ともに癒しを感じられる空間を形成する。</p>	住民、自治会、老人会、青年団、子ども会等の各種地域団体、市町村など

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
				<ul style="list-style-type: none"> ・景観法に基づく景観計画策定の促進 ・自然景観を残すトラスト活動の促進 ・伝統的な建築(高倉や石垣等)の保全 ・サガリバナなど奄美を感じさせる植物を生かした花いっぱい運動の推進 など 	
			奄美ミュージアム特区等の活用	<p>奄美ミュージアム活動を推進するため、構造改革特区制度や地域再生制度の活用も検討する。 【メニュー例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊にともなう規制の緩和 ・外国船クルーズ観光受け入れのためのビザ・CIQ 関連の緩和 など 	奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)
(2) マーケティング活動の推進					
			マーケティング調査の実施	<p>観光客や都市住民等のニーズなどを調査し、その結果を適宜、関係者等に公開し、奄美ミュージアムの諸活動に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来島者やまだ来島していない都市住民などに対し、奄美の良い点・悪い点・イメージ、要望などを調査する。 ・旅行会社や運輸会社(航空会社等)、商業関係者などにもヒアリングやアンケートを行い、観光や特産品の課題も探る。 ・アイランダーなどのイベントを活用して、アンケート調査を行う。 	市町村、奄美群島観光連盟、各島観光協会など
			旅行会社等への広報活動・利用促進活動の推進(キャンペーンやスポーツ合宿・修学旅行等の誘致活動など)	<p>奄美ミュージアムの認知度を高めるとともに、旅行会社やマスコミへの広報活動を積極的に推進する。また、スポーツ合宿や体験学習型の修学旅行、アイランドキャンパス(学生合宿)、大型クルージング船・帆船・ヨットなどの寄港、フィルムツーリズムや産業観光、ロングステイなどの誘致を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社やマスコミに対して広報キャンペーン隊を派遣する。 ・各地の観光物産展やアイランダーに出展する。 ・体験学習型修学旅行の誘致に向けて、各地の教育委員会や旅行会社に働きかけを行う。 など 	奄美群島観光連盟、奄美大島観光物産協会、スポーツアイランド協会、市町村など
			奄美ミュージアムパスポート・奄美マイレージ制度の整備	<p>リピーターを増やすために、奄美来島者に奄美ミュージアムオリジナルのパスポートやマイレージカードを発行し、各種の割引や優遇措置が受けられるほか来島回数等に応じてポイントがたまり特典に引き替えることができる仕組みをつくる。</p>	奄美群島観光連盟、各島観光協会、奄美大島観光物産協会、奄美観光受入連絡協議会など
			観光団体間の連携・協力	<p>より多くの観光客に奄美群島に来島してもらうため、観光関係団体間の連携・協力によるキャンペーンや広報活動を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の場づくり ・奄美群島観光の課題の共通認識づくり ・共同キャンペーンの実施 ・接遇や苦情対応のマニュアルづくり など 	奄美群島観光連盟、各島観光協会、奄美大島観光物産協会、奄美観光受入連絡協議会など

3・4 情報の発信

奄美ミュージアムは、奄美の「宝」への深い理解が欠かせません。「宝」に関する情報の収集・整理・蓄積をもとに、情報の発信を積極的に推進していきます。

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
(1) 情報発信					
			イベントやシンポジウムの開催、アンテナショップの活用	奄美群島の魅力をアピールするため、群島内外でイベントやシンポジウムを開催するとともに、販路拡大や情報の受発信のために、アンテナショップを活用する。 ・奄美の宝個々に関するものから、奄美の特質・特徴を明らかにする学術的なもの、地域活性化の事例研究などまで、多様なイベントやシンポジウムを開催する。 ・奄美の特産品などのマーケティング活動実践の場とするため、アンテナショップを活用する。	奄美群島広域事務組合、市町村、奄美大島観光物産協会など
			奄美学術フィールドの形成	奄美に関する学術研究を体系的に推進するため、研究機関や研究者との連携や、研究成果の普及を図る。 ・奄美を研究フィールドとしている研究機関や研究者に関する情報収集・提供 ・奄美研究に関する研究成果の普及 など	大学・研究機関 奄美群島広域事務組合、市町村、奄美郷土研究会、住民など
			世界遺産・ラムサール条約への取組	世界遺産やラムサール条約への登録をめざした住民等に対する啓発活動を行う。 ・パンフレットの作成 ・シンポジウムや講演会等の開催 ・希少な野生動植物の保護条例制定の促進 など	住民、奄美群島広域事務組合、市町村など
			奄美の宝大使や「しまのサポーター」を活用した全国への情報発信	「奄美の宝大使」を任命し、全国に向けて奄美ミュージアムに関する情報を発信する。また、「しまのサポーター」を活用し全国の奄美ファンに向けて情報を積極的に発信する。 ・奄美の宝大使は、各島など既存の大使との重複を避けたり役割分担を図ったうえで、著名な文化人やアスリートなどに就任してもらう。 ・奄美の宝大使の有する人的ネットワークを奄美の活性化・交流促進に役立てられるようにする。 ・「しまのサポーター」のホームページやメールマガジンの積極的な活用 など	奄美ミュージアム推進会議、各島分科会、奄美群島観光連盟、奄美大島観光物産協会、マスコミなど
(2) ITの活用					
			ポータルサイトの開設	インターネットを利用して情報を発信するため、奄美群島に関する情報の総合的な入り口となるポータルサイトを開設する。 ・イベント情報などコンテンツ(内容)を充実させ、新鮮で役立つポータルサイトとする。 ・民間事業者のホームページへリンクするなど連携を図る。 ・ポータルサイトは、奄美の宝に関するデータベースとしても機能するように、宝に関する各種の情報を整理・蓄積し検索できるようにする。	奄美ミュージアム推進会議(IT活用部会)、奄美群島広域事務組合など

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
			携帯電話などによる情報の提供	奄美の宝がある奄美群島各地(現地)で情報を入手できるようにする。 ・携帯電話用ポータルサイトの構築 ・2次元バーコード(QRコード)を記載した解説パネルなどを設置し、その場で情報を入手できるようにする。 など	奄美ミュージアム推進会議(IT活用部会)、奄美群島広域事務組合など
(3) 情報提供体制の整備					
			導入拠点における情報の提供	観光客や来訪者の入り口となる空港や港を奄美ミュージアムに関する情報を提供する拠点として活用する。 (提供する情報例) ・奄美ミュージアム全体の概要説明 ・中核情報発信拠点(コア)や各島情報発信拠点(サブコア)に導くための情報 ・周辺の奄美の宝や観光ルートに関する情報 等	奄美群島観光連盟、各島観光協会、市町村など
			中核情報発信拠点(コア)としての機能の充実	奄美ミュージアムの中核(コア)として、奄美ミュージアムに関する様々な活動を行うとともに、情報を広く発信するための機能などを充実させる。 【中核情報発信拠点の機能】 ・情報の収集・整理・発信機能 ・展示機能 ・広報機能 ・普及・啓発機能 ・体験機能	奄美パークなど
			各島情報発信拠点(サブコア)としての機能の充実	各島における奄美ミュージアムの情報発信拠点(奄美ミュージアムのサブコア)としての活動を行うとともに情報を発信する。 ・各島あるいは市町村ごとに設定する。 ・基本的には中核情報発信拠点と同様の機能を有するが、地域に根ざしたよりきめ細かな情報収集や提供を行う。	博物館、資料館、観光・文化施設等の各施設、市町村など
			情報発信拠点(中核・各島)間の連携	中核情報発信拠点及び各島情報発信拠点間の連携を図る。 ・情報の共有、連携プロジェクトの検討、課題解決に向けた行動計画の検討などを行う。 ・巡回展や共通入場券、共同イベント など	博物館、資料館、観光・文化施設等の各施設、市町村など
			宝に関する適切な整備(サテライトの整備)	各地にある奄美の宝を正しく理解できるようにする。「見る」「触れる」「体験する」などの環境を整える。 (整備例) ・解説パネルの設置(外国語の説明を併記) ・宝の地図(案内地図)の設置 など	住民、市町村、各島観光協会など
(4) 広報活動の推進					
			奄美群島住民への広報活動の推進	奄美群島全体の運動体として奄美ミュージアム活動を推進するため、奄美群島住民への広報を積極的に行う。 (展開例) ・奄美ミュージアムのホームページの活用(掲示板を設けるほか、パブリックコメントも実施) ・パンフレットなどの作成 ・市町村の広報紙誌の活用 など	奄美群島広域事務組合、市町村、マスコミなど

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
			VI (ビジュアル・アイデンティティ) の構築	奄美ミュージアムらしさを感じさせるシンボルマークやロゴなどを作成し、広報活動や宝がある現地に設置する解説パネルなどに活用する。	奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)など
			奄美ミュージアム大賞の創設	奄美ミュージアムに関する活動などで地域振興に貢献した個人・団体・事業者を表彰する制度を創設する。 ・大賞・部門賞(産業クラスター賞、自然環境共生賞、景観賞など)・特別賞を設ける。	奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)、奄美群島広域事務組合、市町村、マスコミなど
			奄美の「宝」100選の公募・制定	次に奄美の宝を継承するとともに観光促進を図るため、奄美の「宝」100選を公募し制定する。 ・奄美群島の住民だけではなくインターネットなども活用し広く応募を呼びかける。 ・現地(サテライト)に設置する解説パネルに奄美の「宝」100選の文字を表示する。	奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)、奄美群島広域事務組合、市町村、マスコミなど

3.5 群島内外との交流・連携の促進

奄美ミュージアムを一つの運動体としてとらえ、地域住民と行政、事業者などが立場や枠組みをこえて一体となって連携していくことが大切です。「協働」の環境づくりを進めることで、持続的・発展的な奄美ミュージアム活動を推進します。そのうえで、魅力ある奄美の「宝」を活用して国内外の地域との交流を促進します。

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
(1) 地域内交流ネットワークの形成					
			NPO や地域コミュニティとの連携促進	奄美ミュージアムで重要な役割を担う、NPO や地域コミュニティとの連携を進める。地域に埋もれた人材(人的「宝」)を地域で活用し、高齢者等の生きがいづくりにつとめるとともに、学校等との連携につとめる。 ・奄美ミュージアムに関する意見交換の場を設け、主体的な参加を促進する。 ・高齢者等の豊富な経験や知恵・技術を地域づくりに生かす。	住民、NPO、青年団・老人クラブ・女性団体・地域自治会等の団体、市町村など
			奄美ミュージアムサポート組織の整備	奄美ミュージアムの趣旨に賛同する群島内の個人・団体・企業などに会員になってもらい、奄美ミュージアムの様々な活動に参加・協力してもらう。(協働例) ・奄美癒しツーリズムによるツアーへの協力 ・異業種交流会・講演会、ガイドツアーなどへの参加 ・海岸清掃などのイベントへのボランティア参加等	住民、各団体、奄美ミュージアム推進会議、各島分科会、マスコミなど
			群島内交流の促進	群島住民間の交流を促進することにより、奄美群島間の自然・歴史・文化の共通性と違いを知り、居住地域の宝を再認識してもらう。 ・群島内相互訪問ツアーの実施	住民、NPO、青年団・老人クラブ・女性団体・地域自治会等の団体、市町村など

重点項目	実施時期		プログラム名	概要	実施主体
	早急に取り組む(実施中を含む)	中長期的に取り組む			
				・群島間での子ども交換留学(奄美の子どもを対象とし、他の島に短期ホームステイする)など	
			奄美ミュージアムクルーズの実施	<p>利便性を提供しながら、滞在型観光の促進と奄美群島への理解促進を図る。</p> <p>・奄美癒しツーリズムを推進するために、客船をチャーターし、群島内クルーズを実施する。</p>	NPO(当面は各島観光協会)、奄美ミュージアム推進会議(奄美癒しツーリズム部会)、奄美大島観光物産協会、奄美観光受入連絡協議会、旅行会社など
(2) 地域外との交流ネットワークの形成					
			アイランドキャンパスの促進	<p>大学などの高等教育機関の学外活動を受け入れ、奄美群島への理解を深めてもらうとともに、交流人口を拡大する。奄美の自然・歴史・文化・産業などに対する調査研究の進展も期待する。</p> <p>・大学等のサテライト教室の受け入れ</p> <p>・大学等のセミナー、合宿、論文作成などのフィールドワークの受け入れ</p> <p>・地域住民も参加できる公開講座やシンポジウムの開催促進 など</p>	大学・研究機関、鹿児島県離島振興協議会、市町村など
			沖縄などとの地域間交流促進	<p>沖縄をはじめ奄美群島外との地域間交流を促進することにより、奄美の自然・歴史・文化との共通性と違いを知り、居住地域の宝を再認識してもらう。</p> <p>・相互訪問ツアーの実施</p> <p>・子ども交換留学(奄美の子どもと他地域の子どもの短期ホームステイ)</p> <p>・相互に物産展を開催 ・共同ホームページなど</p>	住民、沖縄・奄美スローフード協会、奄美大島物産協会、青年団・老人クラブ・女性団体などの各団体、郷友会、奄美群島広域事務組合、市町村など
			全国各地の郷友会との連携促進	<p>全国各地にある奄美出身者の親睦団体である郷友会との連携を進め、奄美ミュージアムの諸活動に協力してもらう。</p> <p>・郷友会誌等を通じた情報発信</p> <p>・郷友会の里帰りツアー等の積極的な受入</p> <p>・郷友会会員の知識・経験・ネットワークを活用した奄美ミュージアムの高次化や商品開発・販路拡大等 など</p>	奄美群島広域事務組合、奄美観光受入連絡協議会、各島観光協会、市町村、郷友会など
			芸術家滞在の促進	<p>奄美群島での芸術家の滞在を促進し、創作活動を行ってもらい情報発信や地域文化の向上を図る。幅広い分野の芸術を対象とする。</p> <p>・使用していない公共施設や空き教室など活動場所・アトリエなどの斡旋・提供</p> <p>・簡易宿泊先などの斡旋・提供</p> <p>・広報活動支援 など</p>	住民、市町村など
			癒し滞在の促進(ポラバイトの受入)	<p>奄美の持つ「癒しの力」を活用し生きる力の回復、生きる目的の発見を支援する。</p> <p>【実施に向けて】</p> <p>・ポラバイト(ボランティアとアルバイトの合成語)受け入れのための基盤整備(農林水産業をはじめ各種産業のポラバイトに対するニーズ調査、受入方法や募集方法、受付窓口の検討など)</p> <p>・推進に向けた体制づくり など</p>	奄美群島広域事務組合、NPO(当面は各島観光協会)、市町村、住民など

重点 項目	実施時期		プログラム名	概 要	実施主体
	早急に取り 組む(実施 中を含む)	中長期的 に取り組 む			
			子ども留学の受入 (農山村漁村留学)	奄美の持つ「癒しの力」を活用しながら、不登校 などの子どもたちに生きる力を育んでもらう。 【実施に向けて】 ・奄美群島住民・地域コミュニティの理解促進・ 啓発活動の推進 ・小中高校の受入体制の整備 ・里親制度、フリースクールの検討 など	市町村など
			コンベンションの誘 致	コンベンションを誘致し交流人口の拡大を目指す。 ・民間団体等の主体的な取組に対する支援策 の検討 など	奄美大島青年会議 所、奄美大島法人 会等の各団体など